

公立学校共済組合近畿中央病院
消化器内科医長

ひらかわ ひでゆき
平川 秀之

ヘリコバクターピロリ菌について

ピロリ菌、って皆さんご存知ですか？

胃の粘膜に生息する細菌で胃炎・胃潰瘍・胃癌などの胃の病気に関与していることがわかってきました。

昔は胃には胃酸という金属でも溶かしてしまう強力な消化液が存在するため、胃の中に細菌はいないと考えられていましたが、1979年オーストラリアのウォーレンDr、マーシャルDrによってピロリ菌が発見され2005年ノーベル生理学・医学賞を受賞されております。

ピロリ菌の本体の長さは4ミクロン（4/1000mm）で、2、3回、ゆるやかに右巻きにねじれています。

一方の端には「べん毛」と呼ばれる細長いしっぽが4～8本ついていて、くるくるまわして動いています。

胃の中はpH 1～2と強い酸性環境で、通常、細菌は生息できませんが、ピロリ菌は「ウレアーゼ」という酵素を作り出すことによって胃の中の尿素を分解しアンモニアを作ります。

アンモニアはアルカリ性ですからピロリ菌の周りの胃酸が中和され胃の中で生息していくことが可能となります。

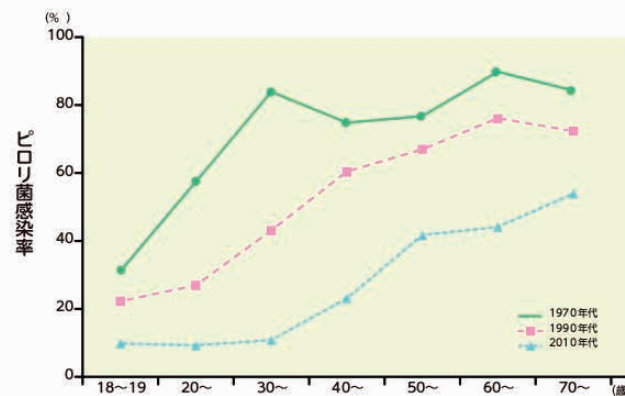
感染原因

ピロリ菌はどういったことで胃の中に住み着くのでしょうか？

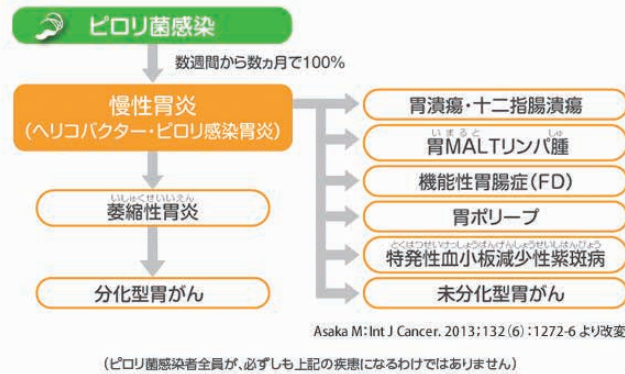
口～口感染、糞～口感染、飲料水からの感染など諸説ありますが、口から侵入して感染の契機となることは間違いなさそうです。

ピロリ菌のほとんどが幼少期に感染すると言われています。幼少期の子供の胃はまだ酸性が弱く、ピロリ菌が生き延びやすい環境にあります。昔は上下水道などの生活環境が整っておらず、感染原因の一つと考えられていましたが、現代の日本では生活環境が整っており普段の生水を飲んで感染することはありません。最近ではピロリ菌に感染している両親から子供への家庭内感染が疑わ

わが国におけるピロリ菌感染率



Kamada T, et al.: Helicobacter. 2015; 20(3):192-8



れており、小さい子供への食べ物の口移しなどは注意が必要です。

感染率自体は年々低下してきています。

症状としては繰り返す胃の不快感、胃もたれ、腹痛、食欲不振などがありますが無症状の方も多くおられます。

ピロリ菌が胃の粘膜に感染すると慢性胃炎を発症し、胃潰瘍や十二指腸潰瘍など発症することがあり、また、胃の粘膜が薄く痩せてくる「萎縮性胃炎」という状態になり、その一部から「胃がん」が発生してきます。

胃がんとピロリ菌

胃がんとピロリ菌は密接に関係しているといわれています。

1994年にWHO（世界保健機関）は、ピロリ菌を「確実な発がん因子」と認定しました。これは、タバコやアスベストと同じ分類に入ります。

ある調査では10年間で胃がんになった人の割合は、ピロリ菌に感染していない人では0%（280人中0人）、ピロリ菌に感染している人では2.9%（1246人中36人）であったと報告されています。

そして、ピロリ菌を除菌すると、新しい胃がんが発生する確率を減らすことができる可能性があります。早期胃がんの治療後にピロリ菌を除菌した患者さんは、除菌をしなかった患者さんと比べ、3年以内に新しい胃がんが発生した人が約3分の1だったと報告されています。

治療

ピロリ菌を退治する治療のことを「除菌」といいます。

除菌治療の前に内視鏡検査を行い、胃の病気を確認することが必須となっています。

胃酸を抑える薬・2種類の抗生物質を中心に1週間の内服治療で除菌を行います。

1次、2次、3次除菌と治療薬を選択しますが、医療保険で行える治療は2次除菌までです。

最近では除菌の成功率は約90%とも言われています。

除菌治療中の注意点としてはしっかりと決められた通り内服を行うことと、除菌中は禁煙をしていただくことです。

飲酒については薬によってはお酒と飲み合わせが悪いので薬によっては内服中、禁酒していただく必要があります。

